

# 霊山町小国のかぼちゃランタン祭り事業報告書

コード番号 14-A-410

NPO 法人ふくしま Green space

## ・活動の目的

### (目的①)

霊山町小国地区の大人たちが子どもたちと繋がって、賑わうような町おこしをすること。

### (背景)

元避難勧奨地点となっていた霊山町小国地区は、今も空間線量が比較的高いエリアとして多くの住民は放射能を意識しながら暮らしている。この地区は、子どもたちの多くが避難しており、外で子どもが遊ぶ姿を見ることは少なく、閑散とした印象である。また、福島では、子どもたちが植物と触れ合う機会が減っている。カボチャは野菜の中でも放射能を比較的すいにくい性質であることがわかっていたので、かぼちゃをたくさん栽培し、子どもたちに『かぼちゃランタン』を彫ってもらい、ハロウィンを楽しむ祭りを開催し、霊山町小国地区を元気にしたいと思った

### (目的②)

身近な植物のデータを伝える機会を作り、福島での暮らしの中、自然や植物と前向きに接していけるような基盤を作る。

### (背景)

子どもは比較的自然に近い世代であり、自然や植物と触れ合い、学ぶことは成長の過程において必要である。しかし、震災以降、自然や植物に自由に触れることは容易ではなくなった。自然とのかかわりを持つには、正しい知識が必要であり、触って大丈夫なもの、触らない方がよいものの傾向を知る必要がある。子どもと、子どもにかかわる大人が、植物や自然にある放射能についてしっかりとした知識を持つ機会が必要である。

## ・研究活動の内容と方法

### ① サクラの樹皮汚染問題

#### (内容)

福島学院大学の杉浦広幸准教授の研究により、福島市・伊達市のサクラの樹皮の放射性セシウム汚染は、2万～35万ベクレルあることがわかっている(2014年研究報告発表。)サクラの木は比較的に子どもに近い公園・校庭にあることや、触れると手に付着するものであることから、子どもの内部被爆につながる恐れがある。そこで、早急に住民への周知と、除染が必要であり、除染方法が確立されていないことから、実証実験が必要となった。

#### (方法)

福島学院大学に調査を委託。桑島工業に作業を委託。H27年3月16日に児童養護施設 福島愛育園(福島市田沢地区)でサクラの樹皮3本の削り取りによる除染の実証実験を行った。金たわしによる削り取りの除染を、根元から半径2.5Mの範囲にわたり行った。表面の放射能汚染は1210cpmが267cpmまで低下した。作業時間は1人1本3時間。※詳細は別紙『福島のサクラ樹皮汚染の状況と剥ぎ取り除染の実施結果報告』記載。

### ② かぼちゃの放射性セシウム濃度測定

#### (内容)

子どもたちが触れて遊ぶアトランティックジャイアントかぼちゃの放射性セシウム濃度を測定し、SNSやHPに記載し、データ開示することで、イベントに参加する方の不安を払しょくに繋げる。また、『霊山町小

国地区』で栽培したかぼちゃの放射性セシウム濃度を知ること、霊山町小国地区の農作物の汚染状況がわかり、その数値の低さから、農作物の風評被害払しょくに繋がれば間接的に町おこしになる。

(方法)

福島学院大学に調査を委託。ゲルマニウム半導体検出器を使用。以下、調査結果。

表 福島県北で栽培のカボチャにおける放射性セシウム濃度

場所 \ 測定核種	$^{137}\text{Cs}$ ±誤差 (Bq/kg)	$^{134}\text{Cs}$ ±誤差 (Bq/kg)	Total±誤差 (Bq/kg)
宮代	0.19±0.01	0.05±0.01	0.24±0.02
下小国	0.41±0.07	0.09±0.02	0.50±0.09
土船	1.70±0.16	0.40±0.16	2.10±0.32

土船圃場は、褐色森林土のため最も高いが除染(表土除去)してある。  
宮代圃場と下小国圃場は、粘土粒子が豊富なため吸収量が非常に低い。

※かぼちゃランタン祭に使用したカボチャは7割が下小国の圃場、2割が土船圃場、1割が宮代圃場のものを使用。

#### ・活動の実施経過

3月	アンナの会(アンナガーデン自営業者の集会)へご挨拶。方向性を検討。 サクラの樹皮の試験的除染実施。
4月	アンナの会に参加。協賛の方向で進めることに決定。 かぼちゃ農家3軒にかぼちゃづくりを依頼。
6月	アンナの会へ。今年度は2日間行いたい旨、互いに合意。
7月	福島市教育委員会と伊達市教育委員会に後援依頼提出。
8月	アンナ教会が閉館することになり、会場を再検討へ。
9月	アンナの会で細部調整。かぼちゃの手配等報告。 団体紹介パンフレット作成。かぼちゃランタン祭チラシ・ポスター作成へ。 かぼちゃの保管場所検討。かぼちゃランタン祭当日のスタッフ確保、ボランティア募集。 ボランティアスタッフへの謝礼など資金不足から公益財団法人公益法人協会へ助成金申請開始。
10月	チラシ、ポスター配布。かぼちゃ彫りボランティアの手配、かぼちゃ運び込み計画。 小国小学校でかぼちゃランタン彫り体験会実施。 アンナ教会借用許可を得る。 物品手配。 かぼちゃランタン祭り地図、桜の木の放射能汚染状況について周知のためのチラシ作成。 公益財団法人公益法人協会より助成金取得。 消耗品・雑費購入。 テント手配(伊達市地域おこし支援員へ依頼)
10月31日	15:30~18:00 第1日目かぼちゃランタン祭りinアンナガーデン開催。 ランタンコンテスト後、福島の緑地に関するスピーチ。(2回)
11月1日	15:30~18:00 第2日目かぼちゃランタン祭りinアンナガーデン開催。 ランタンコンテスト後、福島の緑地に関するスピーチ。(2回)

・活動の成果

(目的①に対して)

10月20日にNHKはまなかあいづTodayで生放送に出演、11月1日に福島民友新聞掲載(下)にて、霊山町小国地区のかぼちゃが特産品と紹介された。霊山町でかぼちゃが栽培されていることが定着・周知されつつある。また、かぼちゃランタン祭りへの参加は子供だけで558人あり、予想以上の集客であったことから、霊山のカボチャに抵抗なく触れていることがわかる。かぼちゃを提供してくれた霊山プロジェクトの方々も、このイベントの活気と、子どもたちがかぼちゃを楽しそうに彫る姿を見て、栽培のやりがいを感じてくれた。地元小国小学校に直接出向いてランタン彫り体験教室を行ったので、地元の子供たちにも霊山のかぼちゃを知ってもらう機会になり、イベント会場は福島市であったが、霊山町小国地区の盛り上げに貢献できたと思う。



(目的②に対して)

団体のパンフレットや、桜の樹皮汚染と対策についてのチラシはかぼちゃランタン祭りの参加者に配布し、周知出来た。ランタン祭りのスピーチでも、繰り返し説明させていただいた。また、10月14日には福島市除染推進課の方との話し合いを設け、情報共有を行っている。その際、桜の木が除染可能であること、除染の許可を頂きたいこと、除染で出る汚染樹皮(8000ベクレル以上の指定廃棄物)の処理をお願いした。19日、それについてご返答頂き、現在市で行っている除染基準に当てはまらず、現段階では『木に触れたら手を洗いましょう』という対策を周知することしかできないということになった。福島市と協働の形で進めていくきっかけとなる足掛かりができたといえる。

かぼちゃの放射性セシウム濃度については非常に低い値を検出しており、福島の農産物の傾向を知る一つのデータとして活用できた。また、農作物の風評被害・・・とは、ありもしないことに対する悪い噂ととらえるが、データの開示が一番風評被害を作り出さない方法であり、今回不安の声は上がらなかった。

## ・今後の課題

### (目的①の課題)

霊山町小国でかぼちゃランタン祭りを行うことは、空間線量の問題から、行うことは可能であっても、今回ほどの集客を望めないと思われる。したがって、『かぼちゃ栽培は霊山町小国』、『情報の発信は福島市荒井のアンナガーデン』と、二つのエリアで役割分担しながら進めていく、今回の形で定着させることが課題である。この場合、イベント会場から離れている霊山町小国をどれだけ巻き込んでいけるかが大切である。今回は、小国小学校でのランタン作り体験教室を行ったが、次回以降は幼稚園に声をかけるなど、霊山のかぼちゃを地元が親しむような工夫が必要である。霊山のかぼちゃに注目してもらい、かぼちゃの栽培が盛んになったり、霊山町小国＝かぼちゃというイメージがつけば、かぼちゃを使った 6 次化産業など、町おこしの要素は豊富である。イメージの定着には、継続が何より大事であり、毎年続けることが重要である。

### (目的②の課題)

福島で子どもたちが自然や植物の知識を取り入れ、前向きに自然に触れる生活をするには、より広い範囲への情報発信と、行政との協働で除染の流れを作ることが課題となる。できるだけ多くの団体と協力し、情報共有に努め、一部だけの情報ではなく、福島に住む人たちみんなの情報としていく。現在、いくつかのNPOと連携して除染活動に取り組み始めている。子どもたちの自由な外遊びのために、一定の基準に縛られず、動ける範囲を広げていけるよう、行政との話し合いの場を定期的に持ちながら進めていく。

### (その他反省点)

作業的なことではあるが、かぼちゃランタンを彫ることは非常に重労働であり、ボランティア 3～6 人で 2 日間は、身体的に苦しいものであった。直前のかぼちゃランタン彫りについては来年度以降改善が必要である。

今年度は 8 月～9 月の長雨で、かぼちゃが大量に腐ってしまった。そのため、買い足して補充することになった。かぼちゃを栽培する農家を増やす方向で検討する必要がある。

かぼちゃの搬入作業も、重労働であり、2 日間で軽トラック 2 台かかり、大人は 1 日 4 人必要であった。謝礼の充実を図りたいと思う。

以上

当法人の活動に助成下さいまして、ありがとうございました。

NPO法人ふくしま Green space

理事長 杉浦 美穂